

雲の上のまち



た報

ゆずはら



竹ぼうきの会のミニ門松

新年のあいさつ 〈P2~9〉

「AOYAMAの森」はじまる 〈P10〉

中越 久市 氏 旭日単光章(地方自治功労)受章〈P10〉

ゆずはらトレイルマッププロジェクト IN 鷹取山〈P14〉

etc...

新年号

2023 〈令和5年〉
No.775

●世帯数/1,727 (11月末)
●人口/3,246 (11月末)



謹んで新年のお慶びを申し上げます

本年が皆様にとりまして、輝かしい一年であり、ありがとうございます。令和五年 元旦

榑原町長 吉田 尚人



新年を迎えるにあたりこれまでの取組と、令和5年度に向けての考えを申し上げます。

私は、「町民の皆さま一人ひとりが、それぞれの生きがいや幸福感を感じながら安心して安全に暮らせる町」を実現したいと申し上げてきました。

そして、第7次榑原町総合振興計画と第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、「子々孫々に幸せな暮らしをつなぐ理想郷榑原へ」を合言葉として「世界の課題解決先進地域として経済を再生し、自然とともにある豊かな町民生活を実現」することを目指して各種の施策に取り組んでいるところであります。

本町では、人口減少は依然として進んでおりますが、この町を未来につないでいくためには、この町の魅力を高めることで人の流れを呼び込むことが不可欠です。こうした視点に立つてこれまで「産業の振興」と「教育の振興」に重点を置き、取り組んでまいりました。

はじめに、特に重点を置いている取組について経過報告を申し上げます。

現在、町民の皆さんが自信と誇りをもつて心豊かに暮らせる町づくり、観光産業の拠点となるよう、太郎川公園の再生整備に関する検討を進めております。「都市との交流の拠点」として整備された太郎川公園の当初の目的を尊重し時代の変化も考慮し、キャンプ場や湿性植物園などの公園施設は、可能なものから順次整備を行うております。

そのなかでも、中核的な施設となるホテル・レストラン・道の駅の建設については、新型コロナ禍による社会の変化も考慮し、規模の見直しを図りながら、必要に応じて増設策も視野に入れ、木の里榑原にふさわしく、榑原の木材を活かした、将来への遺産としてつながるものにしたと考えております。

都市との交流、観光産業の拠点として、基幹となる施設、客人信仰を引き継いだ良質なサービスを提供できる施設として、令和8年度中の完成を目指しております。

また、本町では、平成11年から自然エネルギーの活用に取り組んできました。そのシンボリックな風力発電の稼働から20年以上が経過し、施設の老朽化やFIT価格期間の終了な

ど様々な課題も顕在化し、現在建替工事を行っております。

こうしたなかで、本町の再生エネルギーのポテンシャルや今後の取り組みについて検討を重ね、榑原ペレットを利用する「熱電併給木質バイオマス発電施設」を導入し、発電の際に発生する熱を温泉、プールの加温に利用することを計画しております。これにより、林業、観光、エネルギーなど様々な分野が関連し、つながることが期待できます。本町が調査検討してきた施設の導入や電力の有効利用などの計画により、国の「脱炭素先行地域」としての選定をいただいたところでは、全国のモデルとして、町民の皆さんの自信と誇り、心豊かな暮らしにつながるよう取り組んでまいります。

「産業の振興」では、現在、「榑原令和の森づくり協議会（REMORI）」と一緒に森林の活用に取り組んでいます。林業を支える人材として、地域おこし協力隊6名の皆さんが、技術の習得に励んでいただいております。農業では、野菜栽培や加工品づくりに取り組んでいただきながら集荷の仕組みづくりを進めております。集落活動センターの新たな事業として、キジやアメゴの養殖事業が継続

に向かつております。畜産では、津野山畜産公社の経営安定化による雇用の安定を図り、畜産農家のお役に立てるよう取り組んでおります。

また、ワイン用ブドウの栽培では、昨年は約3トンが収穫でき、現在ワイナリーで醸造されております。

こうした取組のなかで新たな起業や生業も生まれてきております。また、観光協会では、町内の資源や資産を掘り起こしながら磨き発信する取組が進み始めています。

品質の高さに定評があるライフル生産や自動車部品の製造などの誘致企業とも密接に連携しながら、経済の安定に努めてまいります。

また、こうした産業を支える人材の育成が不可欠であり、「保幼小中高」の18年間を通じた教育の推進に取り組んでおります。子供たちがそれぞれ自分の進路や選択肢を広げ、この町を内外から支えてくれる人材となっていくだけではない、その夢がかなうことを応援してまいります。

教育の振興が産業の振興や福祉の充実につながるよう引き続き取り組んでまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

榑原町役場

榑原町長 吉田 尚人
副町長 西村 新一

監査委員 外職員一同
中越 拓平
森田 呂弥

新年おめでとうございます

令和五年の新春をご健勝でお迎えのことと
心からお慶び申し上げます。
令和五年 元旦

梶原町議会議長 市川 岩 亀



日ごろから町議会への深いご理解と、議会活動に対する温かいご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の国内での発生から間もなく3年が経過する今もお、世界に広がる感染の脅威に、この病気の怖さを改めて痛感させられます。感染の影響により亡くなられた皆様にお悔やみを申し上げますと共に心よりご冥福をお祈りいたします。また、ロシアのウクライナ侵攻という事態による世界的な事案の発生により、様々な影響を受け見通しの立たない状況となっております。
このような世界に大きな影響を与える出来事により、原油の価格高騰が発生。私達は今、改めて歴

史的な厳しい時代を生き抜いているのではないのでしょうか。そのようなか、昨年度は町内で32名の若者が成人を迎え、一人ひとりの思いや将来の夢などを語り、目標を掲げ取り組んでいるお姿を拝見し、未来を担う若者の成長に感謝し頼もしさを感じました。そして心からエールを送りたい、そんな1年でもありました。

4月には、町中心部から南部地域を20分圏内で結ぶという構想の下、平成24年から取り組んでおりました町道佐渡鷹取線が供用開始となりました。これにより、多くの松原区の住民はもとより、南部地域への行き来が時間短縮され、以前と比較して便利で安全な生活を送ることができるようになりました。

した。今後も町内その他の改良について、また本町が取り組む様々な課題について早期執行へ繋げるよう、議会の果たす役割と責任を自覚し、執行部と共に進めてまいります。今後とも、町民の皆様の付託に応えられるよう、心をひとつに英知を結集して、町政発展に精力的に臨んでまいります。

結びにあたり、今年は一地方選挙の年であり、梶原町議会議員選挙も行われます。残りの任期をしっかりとご期待に込められるよう取り組む所存でございます。どうか本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りたく心からお願ひ申し上げますとともに、町民の皆様にとりまして、本年が素晴らしい年になりますことを心からお祈り申し上げます。

梶原町議会

議長	市川 岩 亀
副議長	市川 慶 男
議会運営委員会	
委員長	西川 慶 男
副委員長	中越 計 清
委員	下元 秀 俊
	森田 呂 弥
	西川 豊 正
	土釜 清
総務教育厚生常任委員会	
委員長	下元 秀 俊
副委員長	森田 呂 弥
委員	土釜 清
	中越 計 清
	西川 慶 男
産業建設常任委員会	
委員長	西川 豊 正
副委員長	中越 計 清
委員	下元 秀 俊
	市川 岩 亀
議会広報編集委員会	
委員長	土釜 清
副委員長	下元 秀 俊
委員	森田 呂 弥
	西川 豊 正
	中越 計 清
	西川 慶 男

明けましておめでとうございます

皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

令和五年 元旦

榑原町教育委員会教育長 矢野 準也



旧年中は本町の教育行政にご支援・ご協力賜りまして、厚く感謝を申し上げます。

また、地域の皆様におかれましては、日ごろよりそれぞれのお立場から子どもたちの健やかな成長のために御尽力をいただきとともに、コロナ禍において、子どもたちが安心して充実した日々を送れるよう温かく見守っていただき、心から感謝申し上げます。

振り返ると、新型コロナウイルス感染症に悩まされる生活が始まってから、もうすぐ3年が経過しようとしています。

この間、保育現場・学校現場では新型コロナウイルス感染症防止のため、毎日の検温や消毒作業、さらには子どもたちの心のケア等々、安全を第一に対応を図りながら、「学び」をとめないためにはどうすればできるのかを教職員の方々と共に考え、最善を尽くしてまいりました。

榑原こども園では、昨年初めて図書館の芝生で運動会が開催でき、天気にも恵まれ子どもたちは元気いっぱい体を動かし競技に取り組みました。自然の中での活動を通じ

て、豊かな感性を養い、園児の個性を伸ばす教育保育をこれからも目指していきます。また、子育て支援センターとの連携により、子育て世代の支援を充実し、入園前・入園後も保護者の皆様が安心して地域で子育てできる環境をつくります。

榑原学園では、修学旅行や社会科学見学・陸上記録会など校外活動も再開することができました。8月には、3年ぶりに幡多青少年の家（黒潮町）において、5年生を対象に体験合宿を開催しました。シーカヤックやスキムボードなど海の活動では、海へ入ることが初めての子供も多くおりましたが、マリンスポーツを思いっきり楽しみ、山の子どもたちにとって貴重な経験となったと思います。

何事も、実際に見てやってみるといったリアルな体験は人間を大きく成長させます。コロナ禍で実施の判断が難しい中ではありますが、子どもたちにとってこうした体験は大きな糧になることは間違いありません。最近では行動制限や交流の機会の減少が子どもたちに与え

る影響も懸念されており、感染対策には十分注意を注ぎながら、可能な限り体験型の教育活動を進めてまいりたいと思います。

少子高齢化、人口減少が進み、学校教育制度の根幹にも影響を及ぼしている昨今、地域全体で子どもたちの成長を支えていく環境を整え、社会とつながる協働的な学びを実現することが必要であると

言われており、学校・家庭・地域の連携・協働による取組が、今後益々重要性を増します。これらを踏まえ、学校教育においては、これまで進めてきた一貫教育の取組を進め0歳から18歳までの一貫教育を通して、一人ひとりの個性や強みを尊重して自尊心を高めることを大切に、やり抜く力や自律性、自己肯定感といった非認知能力を高める経験を、学校、家庭、地域、行政が一体となり地域ぐるみで展開し、自信あふれる榑原人の育成を目指します。

生涯学習におきましては、早いもので雲の上の図書館の開館から4年が経ちました。昨年は特に、来館が難しい方や本にあまり関心のない方にも図書館を身近に感じてもらいたくための取組を重点的に、町内事業所への出張図書館の増設や自宅へのお届け便のスタート、各種イベントの実施等に力を注いでまいりました。今後も町民の皆様可愛される図書館を目指し、図書館運営

に努めてまいります。

また、社会体育では、3年ぶりに多くのボランティアの皆様のご協力により龍馬脱藩マラソン大会を開催することができ、新たにパラスポーツ講習会の開催など活発な活動が行われました。また、文化活動では、町民ステージが3年ぶりに榑原座で開催され多くの来場者にお越しいただきました。今後も心身とも健康をめざしたスポーツの推進、芸術・文化振興等や各種社会教育団体への支援を継続して行います。

本町にはこの地域ならではの、特色ある取組がたくさんあります。教育委員会といたしましても、多方面からの力を結集して取組を進め、また各種団体の活動を支援してまいりたいと考えますので、保護者、地域の皆様方のご理解・ご協力を何卒よろしく願います。

本年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう心からご記念申し上げ新年のご挨拶といたします。

榑原町教育委員会

- 教育長 矢野 準也
- 教育長職務代理 岩本 直也
- 教育委員 樋口 益也
- 教育委員 吉富 文
- 教育委員 森山 美幸

謹んで新年のお慶びを申し上げます

輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
令和五年 元旦

高幡消防組合榊原消防団 団長 森田 耕一



地域の皆様には、平素より我々

消防団、女性消防隊、少年消防クラブそして幼少年消防クラブに温かいご支援、ご協力をいただきまして、衷心より厚くお礼申し上げます。また、団員・隊員の皆様には火災をはじめ各種の災害から地域の安心・安全を守るため昼夜を問わず献身的にご尽力いただき感謝申し上げます。

昨年も各地で、地震・台風・大雨等による自然災害が後を絶たず、各地で甚大な被害をもたらし、土砂崩れや浸水などの多大な人的物的被害が多く発生しました。

本町においても、9月の台風14号により倒木や土砂災害が報告され、消防団が出勤し河川の氾濫警戒や土嚢積みなど対応に追われました。11月には、行方不明者捜索が発生し、5日間、家族はもろろんのこと、地域住民一丸となって、懸命に捜索を行いました。残念ながら発見に至らず、打ち切りと

なりました。

また、昨年は、火災の多い年でもあり、2月には建物火災や耕作地の枯草等が焼けるその他火災、4月には2日間にまで及ぶ林野火災、10月には耕作地の枯草等が焼けるその他火災、11月には車両火災、12月には建物火災が相次いで発生しました。幸い、人的被害は無く、早期に消火することができました。

また、世界各地にまで感染拡大が及んでいる、新型コロナウイルス感染症により、行事等の中止、活動自粛や制限がかけられました。

昨年の消防団及び女性消防隊の活動としましては、2月13日には、恒例の出初式を行う予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、中止となりました。

3月4日には、東京都のニッショーホールにおいて、秀でた活動を展開し活躍が顕著な消防団に

対してのみ授与される最高栄章である「まとい」を受章しました。4月3日には入団式を行い、7名の新入団員とともに、新たに幹部となった隊員に辞令交付を行いました。

4月28日には、高知県消防大会が新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、規模を縮小して、高知県庁正庁ホールで開催されました。団員や団員の配偶者の中から「消防庁長官表彰永年勤続功労章」1名、「高知県知事消防団員配偶者功労感謝状」2名が受賞された事は誠に喜ばしいことであります。

7月3日には、恒例の榊原消防団・女性消防隊連合演習を開催し、消防団員の日頃の訓練成果を遺憾なく発揮しました。

10月29日には、2年越しに千葉県市原市の千葉県消防学校において第29回全国消防操法大会が開催され、高知県の代表として榊原消防団第5分団が出場し、見事、準優勝することができました。

救急ボランティア(EVY)の活動においては、1件の出動要請があり、消防団員である1名の隊員が現場へ出勤し、活動しました。消防団の装備充実につきましては、

久保谷と文丸の2カ所に40t防火水槽が設置され迅速な消火活動が可能となりました。

本年も団員及び女性消防隊一同、町民の皆様の生命及び財産を災害から守り、安全で安心して暮らせる町づくりのために努めてまいりますので、なお一層のご支援ご指導をいただきますよう心からお願い申し上げます。どうか、この1年が無火災と無災害でありますと共に町民の皆様の健康とご多幸をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

高幡消防組合榊原消防団

- 団 長 森田 耕一
- 副 団 長 川上 博史
- 副 団 長 山本 浩辰
- 第一分団長 中越 和仁
- 第二分団長 神明 信司
- 第三分団長 西村 信明
- 第四分団長 高橋 正知
- 第五分団長 沖田 謙三
- 消防主任 川上 聡

榊原町女性消防隊

- 隊 長 西村 恵子
- 副 隊 長 川上まゆみ
- 書 記 吉田 敬子
- 会 計 西村麻理子

謹んで新年のお慶びを申し上げます

旧年中は組合事業推進につきましまして、ご支援ご協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

令和五年 元旦

梶原町森林組合 代表理事組合長 森山 真二



この1年、未だに終息の見えない新型コロナウイルスの変異ウイルスが次々と進化をして感染の再拡大への脅威を感じる中、経済活動の再開も徐々に兆しが現れはじめ、私たちの日常そのものにも大きく影響しました。今ではウィズコロナの言葉のとおり、新しい生活様式での基本的な感染予防対策が日常生活の行動そのものに変化をもたらした年でありました。

このような中、国内では前年からのウッドショック現象により国内の木材需要が高止まりとなり木材価格もやや落ち着きを見せはじめ、4割を超えた国産材自給率も少し伸び悩みをみせる状況となりました。

このことにより、森林・林業についても木材需要の拡大に伴う原木の増産、さらには経営継続のための補助や金融措置等の施策が打ち出されたところであります。

しかしその一方、失った雇用や生産事業の活動、さらには林業の担い手対策についてもいまだ極めて厳しい状況にあり、今後さらに新型変異ウイルスの感染再拡大による経済情勢の悪化が長期化すれば、山村に

おける地域経済の生活基盤をより一層悪化させかねない状況です。まずはこのような危機的状況を乗り越えることができる持続可能な国産材時代を構築しなければなりません。このためにはまだまだ皆伐や間伐・路網整備等の森林整備を目的とした森の工場等の一連の団地施業が求められます。

こういった状況をふまえて森林組合系統では、森林所有者の経済的利益の向上や、地域社会の活力創造を目指した系統運動を展開し、林業の成長産業化及び資源の循環利用と適切な管理の推進、人材の確保・育成と林業労働安全、国産材利用促進、そして災害に強い森づくり等に向けての行動が急務となっております。

さて、令和4年度の組合事業につきましましては昨年からのウッドショック現象により木材価格の高止まり状況が続き、2年目を迎えた高知県森林組合連合会傘下の梶原ストックヤードによる共販事業では、これまで取り扱いができなかった水源林整備事務所(旧公園)事業での搬出原木を、系統販売として順調に市場販売することがで

きました。またペレット工場への原材料供給も町有林の分収林立木販売事業等により、未利用材の出材が順調に推移し原材料の確保ができました。さらには加工事業での「顔の見える家づくり」につきましても、ウッドショックでの原木価格が高騰するなか、国内の製品市場価格も追隨して上昇し、邸別の受注生産体制も前年の受注件数を上回る順調な稼働となり、県内外への製品販売を行うことができました。引き続き自然環境に優しい森林整備の実践や持続可能な林業経営を目指し、FSCブランドによる梶原産材の販路拡大に努めてまいります。

令和5年度においても、町行政との連携を図り、梶原町の新たな担い手づくりについて、森林組合として意欲と能力のある経営事業体としての責務を果たし、ゆすはらの森林づくりの一端を担っていく所存であります。

今後におきましても、森林の価値を高め、自然の力と調和した多様性のある森林づくりに努め、さらにグリーン成長を掲げた森林資源の持続可能な利用によるカーボンニュートラルの実現に向けた梶原町の脱炭素先行地域の取り組みにも関わってまいります。

本年度も、引き続き厳しい状況が予想されますが、役員員一致結束して事業を推進してまいります。

す。組合員をはじめ関係機関の皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。終わりに皆様のご健康とご多幸をお祈りして新年のご挨拶といたします。

梶原町森林組合

- | | |
|---------|-------|
| 代表理事組合長 | 森山 真二 |
| 理 事 | 下村 繁男 |
| 〃 | 上田 和弘 |
| 〃 | 久岡 國雄 |
| 〃 | 岩本 直也 |
| 〃 | 中越 雅哉 |
| 代表 監事 | 片岡 幸作 |
| 監 事 | 山本 浩辰 |
| 〃 | 中平 俊一 |
| 〃 | 外職員一同 |



新年おめでとうございます



本年が皆様にとりまして、輝かしい一年でありますようお祈り申し上げます。

令和五年 元旦

梶原町商工会 会長 長山 和幸



梶原町内外の皆様には、日ごろより梶原町商工会並びに梶原町商工振興協同組合の活動に、ご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

我が国の経済は、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、戦後最大級の落ち込みから徐々に持ち直しています。しかしながら、不安定な国際情勢の影響を受け、燃料・原材料価格の高騰は止まらず、急激に進行する円安など、依然として厳しい経営環境に置かれています。

本町においてもコロナ禍のため売上も元に戻らず、最低賃金の引上げの影響も大きく、人手不足、経費増と重なり、厳しい経営環境が続いています。

このような中、商工会は、国や県、本町と一体となって、各事業者に資金繰りをはじめ、各種給付金の申請支援や従業員の雇用確保対策等、様々な支援策をいち早く小規模事業者に届けるなど、地域の身近な相談窓口としての機能を着実に発揮してきました。

また本年3月には、中小企業庁

が今後の伴走型支援の在り方について取りまとめた報告書において、経営力再構築伴走支援の担い手として、商工会に対して大きな社会的役割が期待されていると云うことです。

あわせて、脱炭素・カーボンニュートラルやデジタル・トランスフォーメーション（DX）の動きを踏まえた対応、ポストコロナ時代における販路開拓や、事業承継支援、自然災害等に備えたりスクマネジメントなど小規模事業者の新たな支援ニーズに対し、伴走型支援を通じて的確に応えていくことが求められています。

地域振興事業においても、地域産品を持つ各種イベントへの出店や、コロナ禍での町内における高原まつりでの花火の実施、グルメまつりや脱藩マラソンへの協力等々、様々な事業に取り組んできました。

特に観光事業に関しては、拠点である施設「雲の上のホテル」がない中、多くの観光客の皆様の誘致活動や視察対応、VR神楽鑑賞への取り組み等々、梶原町商工振

興協同組合・観光協会とともに行って来ました。

これからの観光事業は梶原を支える大きな事業になる可能性がります。商業だけでなく農業や雇用等々、大きな期待を持てる裾野の広い産業です。これからも町はもちろん、観光に関わる人々と連携を強化し取り組んでまいります。

本町も過疎・少子高齢化により、地域力や住民力低下が心配されます。今一度町内の置かれた現状を理解し、会員の皆様や住民の皆様へ寄り添い、梶原の未来を考え、今後の事業に邁進しなければなりません。人手不足も、より一層厳しさが増えています。外国人労働者の力も借りながら担い手を増やすことも、商工会で取り組んでいきます。

梶原町商工振興協同組合も、現在、太郎川の温泉・プール・市場、マルシェユスハラの経営と、カルスト会、学校の給食事業の運営を担っています。お客様や学生、児童、入居者に喜ばれる事を第一に考えてまいります。

今後とも、商工会は唯一無二の地域総合経済団体として、小規模事業者の持続的かつ安定的な発展に寄与していけるよう役員各々が自覚と責任を持ち、一丸となって邁進してまいります。これからこれまで以上のご指導、ご理解、

ご協力をお願いいたします。

私は昨年、病気になる入院、通院リハビリをしています。社会インフラは弱者に優しくないと改めて思いました。これからは弱者に優しいインフラを目指さなければならぬ、健康こそ宝であると感じました。

皆様方が、健康で幸せ多い1年になりますことを心から願っています、新年のご挨拶にかえさせていただきます。

梶原町商工会

会 長	長山 和幸
副 会 長	山本 浩辰
理 事	西岡 利晃
〃	川上 周一
〃	下元 正八
〃	西川 陽子
〃	近藤 律子
〃	中山 博行
〃	安井 謙二
〃	上川 健一
〃	中越 貞幸
〃	中越 哲臣
〃	新谷 正章
〃	戸梶 庄美
〃	長山 亀一郎
〃	中村 俊夫
〃	千光寺 俊和
監 事	外職員一同



梶原町区長会

会長(四万川区) 空岡 則明
 副会長(松原区) 松山 榮喜
 区長(越知面区) 上田 末喜
 (西区) 西村 建雄
 (東区) 氏原 隼雄
 (初瀬区) 氏原 昇佐

梶原町農業委員会

会長 中平 紀善
 会長職務代理 上田 和弘
 委員 谷川 恵美
 中岡 勝寿
 白石さかえ

農地利用最適化
 推進委員
 高橋 亀一郎
 岡林 勝
 高橋 正知
 中平 勝也
 川上 厚志

梶原町民生委員・児童委員協議会

会長 西村 正義
 副会長 山口眞知子
 會計 武正眞智子
 監事 川上 寿久
 高橋 正知

梶原町選挙管理委員会

委員長 坂本 重男
 委員長職務代理 久保 栄八
 委員 中岡 倫
 森田 悟

高幡消防組合津野山分署

分署長 森野 義博
 副分署長 坂本 雅文
 外消防職員一同

梶原町交通安全町民会議

会長 吉田 尚人
 副会長 市川 岩亀
 理事 長谷部 悟
 山中 照亞
 沖田 純輔
 川上 豊雄
 西森 峰雄
 伊藤 一博
 田所 祐人
 上川 涉
 中越 靖
 河野 純雄
 矢野 敬明
 田辺 美枝

運営委員 久岡 健市
 委員 片岡 志保
 黒瀬多津子
 白石さかえ
 宮岡 恵
 家森 裕二
 西村斗代美
 村田貴代子
 片岡 志保
 田邊みどり

主任児童委員
 田邊みどり

交通安全母の会
 監事 山口眞知子
 吉村 廣明
 青木 光夫
 土谷 善昭

交通安全指導員

中越 浩一
 坂本 重男
 二宮 健志

社会福祉法人カルスト会

理事長 中越 平
 理事 空岡 則明
 岡田 量
 熊岡 健
 岩崎 悦子
 掛橋健一郎
 山口 敏
 西村 建雄

監事

梶原町魚族保護会

会長 影浦 賢
 副会長 氏原 昇佐
 委員 村中 秀之
 岡村 聖司
 山中 照亞
 市川 辰壽
 木原 正利
 上川 雄康
 岡林 勝
 下村 繁男
 松山 虎光
 吉村 光義
 下元 秀俊
 西川 豊正
 中越 緑

梶原町人権擁護委員

代表 川上 寿久
 委員 吉富 文
 委員 中越 靖

梶原町保護司会

会長 志手 功
 委員 西村 義幸
 市川 吉朗
 松山 榮喜
 片岡 幸作
 氏原 昇佐

身体障害者相談員

宮本 友和

知的障害者相談員

高橋 正知

梶原町衛生組織連合会

会長 久岡 俊彦
 副会長 川上 政志
 委員 中岡 倫
 宮本千恵子
 中越 靖
 市川 辰壽

健康文化の里づくり推進員

13期生会長 中山 昭子

梶原町手をつなぐ親の会

会長 高橋 正知

梶原町身体障害者連盟(ふれあいのわ)

会長 宮本 友和

梶原町戦没者遺族会

会長 中越 計清
 副会長 下元 秀俊
 會計 西岡 一雄

あゆみの会

会長 藤原 良男

梶原町環境美化推進組合

組合長 川村 善雄
 副組合長兼會計 田所 祐人
 理事 岡村 聖司
 神明 靖
 若宮 康秀
 正岡 寿幸
 中越 大善
 岡林 勝
 石川 昇
 久岡 喜美
 西岡 利晃
 中越 誠

監事

梶原町廃棄物減量等推進員連絡協議会

会長 西川 陽子
 副会長 森山 健二
 推進員 上田 知子
 玉川太得子
 来米 彩
 大川 博子
 西村 典子
 川上 保志
 中越 貴史
 濱田美岐子
 河野 純雄
 久岡 松美
 中越 郁子
 西岡 利晃
 若宮 康秀

梶原町広報委員会

委員長 吉富文
副委員長 西村幸美
委員 川上博明
神明靖
アウテンボーガルト千賀孝
西村新一

図書館協議会

委員長 高橋正知
副委員長 吉村るみ子
委員 空岡則明
瀬戸口登喜恵
吉富文
石川真帆
足達昇
中越英二
川上徳正
糸井将悟

梶原町読書活動推進委員会

委員長 加藤和嘉子
副委員長 宮内大輔
委員 高橋正知
森山聖子
森脇彩衣
森野咲
北岡美佐
次田由梨
中越早紀
山下翔太
樋口浩代

社会教育委員・公民館運営審議会

委員長 空岡則明
副委員長 大村太一郎
委員 土釜清
森田呂弥

委員

長山和幸
中越英二
志手功
大町祐希
西村正義
坂本重男
山口眞知子
宮内大輔
山下翔太

梶原町文化財審議会

会長 西村信明
副会長 神村靖
委員 川上善久
土谷昭
松本州平
松山榮喜

梶原町人権教育研究協議会

会長 中越英二
副会長 足達昇
久米秀人

梶原学園校長

中越英二

梶原高等学校校長

足達昇

梶原町津野山神楽保存会

会長 吉田尚人
副会長 掛橋雅彦
顧問 神明靖
中越計清
前田裕夫
矢野新一
西村新一
矢野新一
川上準也
中越和仁

梶原町スポーツ推進委員

委員長 西村俊二
副委員長 氏原哲哉
委員 宮本友和
田尾欣三
森野健作
久岡政文
下村秀仁

梶原町体育会

会長 坂本重男

梶原町青少年健全育成町民会議

会長 志手功
副会長 矢野準也

梶原町青少年育成センター

所長 中越佐由美
少年指導員 志手功

梶原町老人クラブ連合会

会長 志手功
副会長 市川辰壽
監事 下元時恵
久岡智子
中越成典
中越順市

梶原町婦人会

会長 山口眞知子
副会長 中越郁子
会 上田知子
計 中山昭子

固定資産評価審査委員会

梶原哲哉
西村壽勝
川上寿久

梶原町連合青年団

団長 大町祐希
副団長 高橋元氣
中越早紀

梶原町文化協会

会長 大村太一郎
副会長 掛橋勝司
会 糸井将悟
加藤和嘉子
伊藤一博
山本智也

梶原ゲートボール連合会

会長 岩本直也
副会長 志手功
中岡照美

一般社団法人津野山畜産公社

事務局長兼 牧場長 佐竹紀章
センター長・主任 西森勘介

一般社団法人ゆすはら雲の上観光協会

会長 吉田尚人
副会長 長山和幸
会 西村新一
山本浩辰
西岡利晃
上田末喜
空岡則明
氏原隼雄
氏原建雄
森山眞二
西村義幸
松山榮喜
新谷章男

シルバー人材センター

会長 西森峰雄

梶原町社会福祉協議会

会長 上川雄康
副会長 西村正義
理事 中越平
吉富文
吉村るみ子
明神孝洋
樋口益也
高橋正知
下村昌彦

高知県高幡食品衛生協会梶原分会

会長 新谷章男

よつば会

会長 中越緑

梶原町エプロン会

会長 戸梶 庄美

げらげら家族会

世話人 掛橋 培子

梶原町精神障害者家族会

会長 長山久美子

NPO法人 梶原竹ぼうぎの会

理事長 中越 計清

NPO法人 梶原竹ぼうぎの会

理事長 矢野 豪佑

梶原町精神障害者家族会

理事長 掛橋 培子

梶原町エプロン会

会長 戸梶 庄美

げらげら家族会

世話人 掛橋 培子

「AOYAMAの森」はじまる

―多様性のある森林づくりを目指して―

昨年12月2日（金）、青山商事株式会社及び一般社団法人モア・トゥリーズと森林保全に関する連携協定を締結しました。本協定により、三者協働による森林づくり活動や地域資源の保全に取り組み、持続可能な森林づくりを通じて、地域の活性化を図っていきます。

「洋服の青山」を全国展開する青山商事株式会社は2018年よりスーツの売上金の一部を寄付する取り組みを続けているほか、2021年より不要になった衣料品の店頭回収量に応じた寄付の取り組みも開始しており、モア・トゥリーズを通じて、梶原町の森林保全活動への支援を行ってきました。

協定締結に合わせて、仲洞地区において協定林「AOYAMAの森」を設定し、再造林の推進や林業の担い手の育成にご支援をいただきます。

今後も企業の皆様との協働の森林づくりを推進し、持続可能で多様性のある豊かな森林づくりを進めて参りたいと思います。



吉田町長（左）、青山商事の山根氏（中）、モア・トゥリーズの水谷氏（右）



「AOYAMAの森」にて記念植樹を実施

森林の文化創造推進課



旭日単光章（地方自治功労）受章 中越 久市氏

昨年11月1日に高齢者叙勲が発令され、元・梶原町議会議員の中越久市氏（西町）が旭日単光章を受章されました。

中越氏は、昭和50年5月に梶原町議会議員に当選以来、連続5期20年の長きにわたり、町議会議員として活躍し、特に、平成3年5月から平成5年4月まで、副議長を務めるとともに、教育厚生常任委員会副委員長及び産業建設常任委員会副委員長を歴任し、梶原町の教育、産業振興発展はもとより、林業をはじめとする社会基盤整備、教育文化の振興、福祉の向上に尽力されました。

町議会議員として、地方自治の発展に寄与した功績が認められたものです。心よりお喜び申し上げます。



12月22日 高知会館（高知市）にて表彰伝達式

総務課

※ 高齢者叙勲とは、春秋叙勲によって勲章を授与されていない功労者に対して、年齢88歳に達した機会に勲章を授与されるもので、昭和48年6月以降毎月1日付けで実施されているものです。





梶原こども園だより



明けましておめでとございます。
今年もよろしくお願ひします。

乳児組 (満1歳〜2歳児)

自分でできることが少
しずつ増えてきて、手洗
い・着脱・排泄など簡単
な身の回りのことにチャ
レンジしています。でき
た時には先生にたくさん
褒めてもらい、ニコニコ
笑顔で嬉しそうにしてい

ます。友達や先生との関
わり方にも変化が見られ、
「〜したい」「かして」と
自分の思いを言葉にして
相手に伝えることができ
るようになってきたり、
興味のある遊びを友達と
一緒にしたりと集団生活
の中でたくさん成長して
いることを感じています。

幼児組 (3歳〜5歳児)

▼6年生とチューリップ植え



6年生とチューリップ植え



お話遊びなど



お話遊びなど

▼ぞう組 (5歳児クラス)

のみんなで梶原学園まで
歩いて行き、6年生と一
緒にチューリップを植え
てきました。チューリッ
プの花が咲く頃、ぴかぴ
かの1年生になります。

▼お話遊びなど

幼児組では各クラスで
『おはなし遊び』『踊り』『楽
器演奏』に挑戦していま
す。台詞や踊りの振付を
覚えたり、役になりきっ

たりとたくさん経験
し、クラスみんなで協
力しながら取り組んで
います。

今年もまだまだコロナウ
イルス感染症の心配があ
りますが、感染対策をしっ
かりとして、子どもたちが元
気に遊べるようにしてい
きたいと思っています。

一部の記事は
ホームページ
でも見ること
ができます。
<http://www.yusuharakodomo.jp/>



雲の上の図書館だより

YUSUHARA COMMUNITY LIBRARY JOURNAL



新年あけましておめでとうございます



本年も雲の上の図書館をよろしく願っています。

昨年はコロナウイルスが発生してから3年目となり、誰もが新たな生活様式や考え方のもと、引き続き日々の課題に取り組むこととなりました。図書館においては臨時休館やイベントを取りやめる事態は避けることができ、※直近1年間では来館者数114,202人、貸出冊数26,020冊を記録し、徐々にコロナウイルス発生前の賑わいを取り戻しつつあります。イベント開催時には関係者の創意工夫と参加者の協力により、これまで以上に素晴らしい瞬間が数多く生まれました。4月には四国で2館目となる日本図書館協会建築賞を受賞し、建築と図書館サービスが高いレベルで融合していることを表彰されました。※令和3年12月1日～令和4年11月30日までの12ヶ月間で集計
 本年も町民の皆様のお力になれますよう、スタッフ一同精一杯努めてまいります。

命の重さ、平和の尊さ

『武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方』
 著:宮田律

平和な世界をつくるには何が
 必要か。2019年12月アフガ
 ニスタンで凶弾に倒れた中村
 哲医師。35年にわたってパキ
 スタンとアフガンで人道支援
 にあたった生涯を辿りながら、
 その生き方、考え方を伝える。



武器ではなく
 命の水をおくりたい
 中村哲医師の生き方

平和な世界をつくるには何が
 必要か。2019年12月アフガ
 ニスタンで凶弾に倒れた中村
 哲医師。35年にわたってパキ
 スタンとアフガンで人道支援
 にあたった生涯を辿りながら、
 その生き方、考え方を伝える。

世界に触れる、世界を知る

『世界の憲法・日本の憲法 比較憲法入門』
 編:新井誠、上田 健介、大河内美紀、山田哲史

社会や憲法に関わる身近な話
 題から学びはじめる、比較憲
 法入門書。現代国家が抱え
 る課題に対し、世界の憲法と
 日本の憲法はどう向き合っ
 ているのか、各国の憲法規定・判
 例・運用を比較する。



ご紹介した本が貸出中の際は、ご予約を承ります。お気軽に図書館カウンターまでお問い合わせください。

蔵書整理日 2月の休館日
 7、13~17、21、24、28



- ・入退館時の手指消毒をお願いします
 - ・滞在時間は短めに
 - ・マスクの着用をお願いします (小学生以上)
- 厚生労働省の発表を受け、未就学児のマスクの着用を一律には求めない方針となりました。

2月の行事予定

- 6日(月) 人権相談・行政相談
- 11日(土) 大越粗大ゴミ受入日・環境整備デー
- 12日(日) 梶原消防団・女性消防隊出初式
- 16日(木) 所得申告受付開始
- 20日(月) 梶原町交通安全の日

2月の保健福祉課行事予定

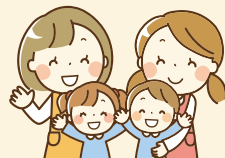
- 1日(水) 松原サテライト
- 2日(木) 四万川宅老
- 3日(金) 初瀬いきいき
- 6日(月) 西区いきいき(下西の川)
げらげら家族会
- 9日(木) 東区宅老、越知面デー
- 14日(火) 愛育相談
- 16日(木) 四万川宅老
- 17日(金) 東区いきいき
- 22日(水) 四万川いきいき
- 27日(月) 西区いきいき(上成)

毎週月曜日 育児サークル(図書館内カンガルーのおなか)午前10時～
※子育て中に限らず、どなたでも参加できます。お待ちしております。

毎週水曜日 予防接種(四種混合、麻疹・風疹【MR】、BCG、日本脳炎、子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌ワクチン、水ぼうそう、B型肝炎)

月曜日～金曜日 子育て世代包括支援センター(支援センター1階)
※妊娠や子育てに関する相談がありましたら、気軽においでください。
(電話でも構いません。☎65-1170までお願いします。)

ゆすっこ相談センター相談日 7日(火)、14日(火)、21日(火)、28日(火)
川畑真理子心理カウンセラーの相談日(月2日) 20日(月)、21日(火)
※相談希望の方は、子育て世代包括支援センター☎65-1170までお願いします。



※行事予定は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今後変更となる可能性がありますのでご了承ください。

文芸

杉の子俳句会

- 極楽と三度言ってる冬の風呂 影浦 鉄心
- 朝日射す庭に大根の白きかな 大崎みなと
- 豊作の樹々へお礼の冬囲い 西村 幸枝
- バス停に初恋の日の冬の虹 川田 早苗
- 立冬やコンサート観に御城下へ 西村 蓉子
- 写メールに千歳飴持つ孫五才 氏原 陽子
- 枯野道陽はさんさんと夫の背に 内野 純子
- 冬時間あの松木より日が昇る 明神伊佐子
- 冬帽子の集まっている路上画家 掛橋 初子
- 冬の浜伊勢海老汁に長い列 下元 廣幸
- カターの歓喜や冬の満月よ 久岡 智子
- 棚田にも神に捧げる重ね餅 野中 胤雄

柚子の木俳句会

- 川底を小魚の群れ師走入る 西村由利子
- 涸滝や葉に埋もれし獣道 西森 誠子
- 大谷の投打二体の菊人形 中平 忠雄
- 初日の出古稀を迎えてしわ伸ばす 中越 郁子
- 六カ寺のスタンプリー除夜の鐘 渡辺 瑞枝
- 頂いた大根ふろふき熱熱で 中越 秋子
- カキフライ平らげる父むせもせず 吉田 敬子
- もみじしてお大師様と茶堂かな 中越 昌一
- 冬日和旅先で買う星座板 広瀬 卓雄

狂歌

「カチ」は敗果ては泥舟 川流れ
カチカチ山の タヌキの話

河野 哲夫



ゆすはらトレイルマッププロジェクトIN鷹取山

昨年11月27日（日）、町民の方々10名で、影野地区にある鷹取山にハイキングに行きました。ゆすはらトレイルマッププロジェクトは、町内の魅力ある山々を町民の方と一緒に再発見し、将来は地図にまとめて町内外に発信することを目的に取り組むものです。そのキックオフとして、天然林が豊かな鷹取山に登ることにしました。

鷹取山の登山口到着後に自己紹介を行い、四万十森林管理

署の中村森林官から鷹取山の解説を受けた後、バードコーンと登山杖を持って、ハイキングをスタート。

ハイキングコースには、樹齢200年を超える大きな木々が点在し、入口では、ヒメシヤラが、コースの途中ではモミやケヤキなど、梶原町の原生の森が広がっていました。時には丸太を乗り越え、横に張り出た木をくぐり抜けるなど、変化に富んだ道のりです。

したが、紅葉の鷹取山を楽しく歩くことができました。

下山後は河原において、アウトドアチェアに座りながらのコーヒードーナツ休憩で登山後の疲れをリフレッシュ。日光に当たりながら、静かな川の流れを眺めつつ、ゆったりとした時間を過ごしました。

次回ほどの山に登ろうか検討中です。皆さまもぜひ一緒に、魅力ある梶原の山を発見しませんか。

梶原令和の森づくり協議会
森林の文化創造推進課



ハイキングスタート！



丸太を乗り越えて進もう！



自然にふれあう参加者



木のトンネル



川原でのんびり



ドーナツとコーヒータイム

編集後記

昨年末にかけて開催されたサッカーワールドカップカタール大会。眠い目をこすりながら中継をご覧になった方も多いのではないだろうか。

死の組と呼ばれたグループリーグ突破、「ドーハの歓喜」に沸いた日本。この言葉の背景にはワールドカップ初出場を目前にして夢破れた「ドーハの悲劇」がありました。奇しくも舞台はカタール。30年前、イラク代表と死闘を繰り広げた日本は終了間際、土壇場でゴールを許し夢を叶えることができなかつたのです。

今では世界で活躍する日本人選手も数多く、個の力の向上が叫ばれていた時代を知る者としては頼もしい思いです。日本チームの森保一監督は、高めてきた個の力と日本の良さである組織力、和の力で戦おうと選手に語り掛けていました。

これは一人ひとりの人生や組織にも同じことが言えると思います。夢や目標を具体的に描くこと、持ち続けること。最後まであきらめないこと、やりきることに。自分の能力を高めること、皆が心ひとつに力を合わせることに。世代を超えて積み重ねていくこと。

叶わなかったベスト8。それでもひたむきに挑戦しつづけることの尊さを若きサムライたちが教えてくれました。ありがとう、日本代表。

新たな年、私たちも新しい景色を見るために歩みを進めていきましょう。

(広報編集委員会)